



THE JAPANESE SCHOOL in LONDON

# ロンドン日本人学校だより10

## 学校教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく国際  
社会を生きぬく児童生徒の育成

合い言葉：自立・貢献

2021(令和3)年

月4日発行 ロンドン日本人学校  
令和3年度 第6号

## Ofsted 監査結果について

校長 石山 秀樹

2学期が始まって1か月余り、気温はすっかり下がり、朝夕の暗い時間も長くなってきました。学校は、手洗い・消毒や換気、中学部での定期的な簡易検査といったコロナ禍に対する取組を継続しながらも、ほぼ通常の学校運営を行うことができます。

特に、今年度の重点である「行事の復興」に関して大きな期待が懸っていた、中学部2学年のスコットランド、小学部6学年のウェールズ・北イングランドへの修学旅行も、それぞれ幸運な好天にも恵まれ、参加者全員が元気に活動することができました。いずれの学年でも、日を追うごとに自分達の中から反省点や改善案を出し合い、それを皆で共有して“よい修学旅行”を実現させたことは、本校の合い言葉「自立・貢献」を体現するすばらしい取組でした。訪れた諸施設の係の方々や、バスのドライバーの方から、繰り返し児童生徒の態度や行動についてお褒めの言葉をいただいたことも校長としてとても嬉しく感じたところでした。現在、練習が進む「創立45周年記念文化祭」でも、児童生徒それぞれの成長が感じられる素晴らしい1日となることを確信しています。

### Ofsted 監査の結果について

さる7月13日～15日の3日間、英国の公的機関であるOfsted（英国教育水準局）による監査が実施されました。仮の結果が9月22日に本校に届き、既に確認を済ませましたので、間もなく正式な結果が学校に届き、皆様にお知らせできる予定です。従って以下の内容は、現段階での状況に基づいた私の推測となります。

結果は4つの観点と総合の5項目、それぞれ Outstanding(優) > Good(良) > Requires improvement(要改善) > Inadequate(不可) の4段階での評価です。

今回の評価は、

教育の質

The quality of education: **Good**

児童生徒の行動と態度

Behaviour and attitudes: **Outstanding**

個人の伸長

Personal development: **Good**

学校リーダーシップと管理

Leadership and management: Requires improvement

全体

Overall effectiveness: Requires improvement

との見込です。今回、2年前から学校を挙げて教師チームが取り組んできた児童生徒の教育に関することについては、Outstanding ~ Good という評価を受けました。一方で、前回監査からの課題でもあった学校管理の面では、後述しますが防火管理体制構築の遅さを指摘されて「要改善」とされ、全体的な評価も項目毎の最も低い評価に引きずられますので「要改善」とされました。

本校は、英国における私立学校として認可されていますので、国の定めた“Independent School Standards”に従う必要があります。この監査は、学校がそれらの基準に適合しているかを確認するものです。本校は2018年10月に前回の監査を受け、10項目・38の小項目での指摘を受けて「不可」とされ、国から学校の閉鎖に追い込まれる事態となりました。

既に御承知のとおり、ロンドン日本人学校は英国という地で日本の文部科学省が定めた教育課程の実践を進める学校です。一方で、英国での私立学校という立場から、教育課程も学校の管理体系も日本とは全く異なる英国の独立学校基準にも適合させる必要があります。

本校ではこの2年間、英国の教育で特に重視されている、児童生徒の Safe-guarding、SEN (Special Educational Needs)、Equality Act 2010 (2010年平等法)対応、PSHE(Personal, Social, Health, and Economic)教育、British Value(民主主義・法の尊重・個人の自由・宗教に対する寛容等、上記 Equality Act 2010 も含まれる)等についての取組を進めてきました。また、最低の評価をされた学校の管理についても、英国で要求される種々の管理体制の整備や学校運営委員会

が学校をチェックする仕組の導入等を進めてきました。これらの取組に並行して 2019 年 10 月、在英日本国大使館の仲介により学校・運営委員会と英国教育省・英国外務省との折衝がもたれ、この中で訴えた学校の改善に向けた行動が英国側に認められ、学校の閉鎖ではなく今一度の監査を行うことが確認されました。その後、コロナ禍によって監査そのものが 1 年半の間停止し、漸く行われたのが今回の 7 月の監査でした。

2018 年の監査では校長が出張中であり、監査員に対する電話での説明も行わなかったこと、学校運営委員会も同様に監査に対応することができず、これらが結果として学校の管理体制について「不可」の評価に繋がりました。この反省を踏まえ、今回の監査では学校の校長・教頭による説明は勿論のこと、学校運営委員長を始め運営委員の方々や大使館の方にも来校いただき、対応の体制を整えました。3 日間の監査では、監査官と管理職や学校運営委員会の面談だけでなく、教師や事務局職員などの学校スタッフとの面談、中学部生徒や小学部児童の集団との面談など、幅広く情報収集が行われました。後の聴き取りでは、学校スタッフも児童生徒も（とても緊張する場面だったと察しますが）それぞれしっかりと対応ができたものと捉えています。また、前回の監査では 26 通しか返信の無かった保護者向けのアンケートについても、今回は 187 通の返信があったとされており、これら教師・児童生徒・保護者の熱意ある取組は必ず最終的な評価に反映されるものと思っています。

監査における詳細な結果については、Ofsted からの正式な最終報告を待たねばなりません。しかし、当日の監査の状況から、今後の改善に向けた指摘を受けるであろう、2つのポイントについて述べておきます。

1つ目は、PSHE 教育についてです。これは先に述べたとおり、個人と社会・健康・経済に関わる内容であり、英国社会を担う子供や若者に対し、知識・理解・実践的なスキルを身につけさせ、健康で安全、生産的、責任ある生活ができるようにすることを狙いとし、英国の教育課程では1つのカリキュラムとしてまとまっているものです。しかし日本の教育課程にはそのような教科は無く、合致する内容は教えられているものの、その内容は、道徳・社会・理科・英語・体育/保健体育・家庭/技術家庭・学活という、大変幅広い教科に散らばっ

ています。本校では各教科で扱われる PSHE の内容を洗い出し、日本の教育課程の中に位置付ける対応をしてきましたが、英国の求める PSHE としてのまとまりのある教育となっていないのは事実です。時間割の中に PSHE を増やすことは物理的に無理ですので、扱い方を工夫することで児童生徒の中に PSHE 教育の内容が定着するように取り組んでまいります。

2つ目は、校舎の防火管理体制についてです。このことについては、以前に実施された防火管理に関する別の監査で 29 項目の指摘を受けた経緯があり、工事等を含めたその対応を、児童生徒がいない夏季休業中に行う予定となっていました。Ofsted 監査が来た時点では防火管理の指摘に対応できていなかった状態でしたので、当然に指摘を受けました。「リーダーシップと管理」項目が「要改善」評価となる要因は、この防火管理対応の遅れにあると捉えています。この夏休み、学校では指摘の 29 項目への対応を実施し、28 項目までの対応を完了しました。残る 1 項目は、校舎内 42 カ所の防火扉の更新です。御存じのとおり校舎本館は 120 年の歴史をもつ建物であり、内外装とも基本的に大きく変更をしていません。しかし、防火監査の結果では、校舎内の歴史ある各防火扉が現在の基準を満たしておらず、扉枠ごと防火扉を交換する工事が必要とされました。この工事には膨大な費用が必要とされる見込であることから、現在はまず見積もりを取り、長期的な視野での予算の確保と教育活動に支障のない工事計画を策定し、学校運営委員会・日本人学校有限会社理事会に諮って対応を進めることとなります。

以上、大変長くなりましたが、今回の監査の概況をお伝えしました。

残念ながら全ての評価が Good や Outstanding とはならなかった今回の監査結果ですが、各項目において前回よりは一步の前進を果たし、学校の閉鎖を免れることができました。関係の皆様、保護者の皆様の御理解と御協力に、心より感謝申し上げます。日本と英国、教育に関する両方の基準を満たし続けることは簡単なことではありませんが、スタッフ一同、このロンドンで学ぶ児童生徒のために引き続き努力してまいります。

[ロンドン日本人学校公式 Blog](#)

ロンドン日本人学校の“今”を伝える公式 blog を御覧ください。

